

教 職 の 魅 力

北海道札幌聾学校

教諭 氏 家 正 章

平成 12 年度採用

(聴覚障がい)

教員生活 10 年目となりましたが、はじめ北海道釧路聾学校にて 7 年間勤務し、現在は北海道札幌聾学校にて勤務を行っています。今年度は中学部所属で、国語科を中心に教科を担当しています。

私は、宮城教育大学を卒業しました。大学時代は附属中学校・宮城県立ろう学校にて教育実習を行いました。正直に言えば教職に対する意識はそれほど高くありませんでした。

大学を卒業したあと、養護学校の免許を取るために、同大学の特殊教育特別専攻科に進み、1 年間学びました。そのときに宮城県内の病弱養護学校にて教育実習を行った際、病気によって死すら考えざるを得ない状況に置かれて、一生懸命『今』を生きている生徒たちに、『今、この勉強して良かったな』と思えるような授業の在り方とはどんなことかを強く考えさせられるきっかけを与えていただいたのが、教職を志した動機といえるかもしれません。

採用前に感じていた不安やとまどいは、生まれ育った地を離れ、一人、北の果ての地（宮城県から見て釧路は本当に最果てと感じ、当時は心からそう思っていた）に行くことでの生活の不安や、環境の変化にかかわるとまどいはありましたが、障害を持っているからという不安やとまどいはありませんでした。

実際に初任地の釧路では、少人数学校であったこともあり、すぐにみんなの顔と名前を覚えたり、みんなからも自分の顔と名前を覚えていただけました。また、いつも笑顔で元気な子どもたちやその保護者の方々、厳しくもあたたかくご指導ご鞭撻いただいた先輩の先生方や、気がつくといつも周りにいていただいた同年代の先生方に囲まれて、不安やとまどいを感じることなく過ごすことが出来たと思います。

自分自身も聴覚障害があることで、悩んだり壁にぶつかってはあきらめたり、分かってもないのに分かったふりをしたり、愛想笑いでごまかしたりすることが多くありましたが、今の仕事をしていることで、様々な人と出会い、向き合い、それによって自分自身を投影したりしながら、あまり難しく考えずに、自分は自分でいいというシンプルな考え方を学べたような気がします。

教員だけではないと思いますが、仕事をする上では障害を持っているということは理由にはなりません。自分ができるときをきちんと行うことで、一人の人として、周りから認めてもらうことができるんだと感じています。

人とかかわる仕事であるがゆえに、その人が成長する姿を間近で見れることや、それによって自分自身の成長も実感できることがこの仕事の一番の魅力だと思います。

障害を持つ人の生き方は、同じ障害を持つ子どもたちにとって一つのモデルになるかもしれませんが、その人の生き方を他人が同じようにできるものではありません。その人の苦しみや喜びを他人が理解できるものでもありません。しかしながら、これから生きていく子どもたちにとっては、障害を持った人の生き方を知ること、周りにいる様々な人たちの生き方を知ったり、今とこれから生きていくための見本や指針となることはできます。

そのためにも、さまざまな障害を持つ人たちが、自信を持って教職の場に来てほしいと心から願っています。